

令和4年度 神戸大学2次試験前期日程(数学問題)80分  
 文・法・経済・経営・国際人間科学(グローバル文化・  
 発達コミュニティ・環境共生(文科系)・子ども教育)・  
 医(保健(理学療法・看護・作業療法))

問題 1 2 3

1  $a$  を正の実数とする.  $x \geq 0$  のとき  $f(x) = x^2$ ,  $x < 0$  のとき  $f(x) = -x^2$  とし, 曲線  $y = f(x)$  を  $C$ , 直線  $y = 2ax - 1$  を  $l$  とする. 以下の問に答えよ.

- (1)  $C$  と  $l$  の共有点の個数を求めよ.
- (2)  $C$  と  $l$  がちょうど2個の共有点をもつとする.  $C$  と  $l$  で囲まれた図形の面積を求めよ.

2  $a$  を正の実数とし, 円  $x^2 + y^2 = 1$  と直線  $y = \sqrt{a}x - 2\sqrt{a}$  が異なる2点  $P, Q$  で交わっているとする. 線分  $PQ$  の中点を  $R(s, t)$  とする. 以下の問に答えよ.

- (1)  $a$  のとりうる値の範囲を求めよ.
- (2)  $s, t$  の値を  $a$  を用いて表せ.
- (3)  $a$  が(1)で求めた範囲を動くときに  $s$  のとりうる値の範囲を求めよ.
- (4)  $t$  の値を  $s$  を用いて表せ.

3  $a, b$  を実数とし,  $1 < a < b$  とする. 以下の問に答えよ.

- (1)  $x, y, z$  を0でない実数とする.  $a^x = b^y = (ab)^z$  ならば  $\frac{1}{x} + \frac{1}{y} = \frac{1}{z}$  であることを示せ.
- (2)  $m, n$  を  $m > n$  をみたす自然数とし,  $\frac{1}{m} + \frac{1}{n} = \frac{1}{5}$  とする.  $m, n$  の値を求めよ.
- (3)  $m, n$  を自然数とし,  $a^m = b^n = (ab)^5$  とする.  $b$  の値を  $a$  を用いて表せ.

## 解答例

- 1** (1)  $C$ と $l$ は、 $x < 0$ の区間で共有点を1個もつ。  
 $x \geq 0$ において、 $C$ と $l$ の方程式から $y$ を消去して整理すると

$$x^2 - 2ax + 1 = 0$$

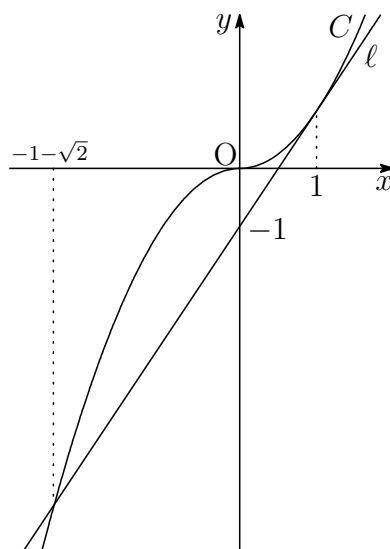
$C$ と $l$ が接するとき、係数について

$$D/4 = a^2 - 1 = 0$$

$a > 0$ より、 $a = 1$ のとき、 $0 \leq x$ において、 $C$ と $l$ は接する(右図)。

$l$ の $y$ 切片 $-1$ に注意して

$$\begin{array}{ll} 0 < a < 1 & \text{のとき} \quad 1 \text{個,} \\ a = 1 & \text{のとき} \quad 2 \text{個,} \\ 1 < a & \text{のとき} \quad 3 \text{個} \end{array}$$



- (2)  $C$ と $l$ がちょうど2個の共有点をもつとき、(1)の結果から、 $a = 1$ であるから、 $x < 0$ において、 $C: y = -x^2$ と $l: y = 2x - 1$ の共有点の $x$ 座標は

$$-x^2 = 2x - 1 \quad \text{ゆえに} \quad x^2 + 2x - 1 = 0$$

$x < 0$ に注意して、これを解くと  $x = -1 - \sqrt{2}$

$\alpha = -1 - \sqrt{2}$ とし、求める面積を $S$ とすると

$$\begin{aligned} S &= \int_{\alpha}^0 \{-x^2 - (2x - 1)\} dx + \int_0^1 \{x^2 - (2x - 1)\} dx \\ &= \int_0^{\alpha} \{(x + 1)^2 - 2\} dx + \int_0^1 (x - 1)^2 dx \\ &= \left[ \frac{1}{3}(x + 1)^3 - 2x \right]_0^{\alpha} + \left[ \frac{1}{3}(x - 1)^3 \right]_0^1 \\ &= \frac{1}{3}\{(-\sqrt{2})^3 - 1^3\} + 2(1 + \sqrt{2}) + \frac{1}{3} \\ &= \frac{4}{3}\sqrt{2} + 2 \end{aligned}$$



- 2 (1) 円  $C: x^2 + y^2 = 1$  と直線  $l: y = \sqrt{a}(x - 2)$  の方程式から  $y$  を消去すると

$$x^2 + a(x - 2)^2 = 1 \quad \text{ゆえに} \quad (a + 1)x^2 - 4ax + 4a - 1 = 0 \quad (*)$$

$C$  と  $l$  が異なる 2 点で交わるから、係数について ( $a > 0$ )

$$D/4 = (-2a)^2 - (a + 1)(4a - 1) = 1 - 3a > 0 \quad \text{よって} \quad 0 < a < \frac{1}{3}$$

- (2) P, Q の  $x$  座標を  $s_1, s_2$  とすると、2 次方程式 (\*) の解と係数の関係により

$$s_1 + s_2 = \frac{4a}{a + 1} \quad \text{ゆえに} \quad s = \frac{s_1 + s_2}{2} = \frac{2a}{a + 1}$$

これを  $l: y = \sqrt{a}(x - 2)$  の方程式に代入して

$$t = \sqrt{a} \left( \frac{2a}{a + 1} - 2 \right) = -\frac{2\sqrt{a}}{a + 1}$$

- (3)  $s = \frac{2a}{a + 1}$  より  $s = -\frac{2}{a + 1} + 2$ .  $0 < a < \frac{1}{3}$  より  $1 < a + 1 < \frac{4}{3}$

$$\frac{3}{4} < \frac{1}{a + 1} < 1 \quad \text{ゆえに} \quad -2 < -\frac{2}{a + 1} < -\frac{3}{2}$$

したがって  $0 < -\frac{2}{a + 1} + 2 < \frac{1}{2}$  よって  $0 < s < \frac{1}{2}$

- (4)  $s = \frac{2a}{a + 1}$  より  $(2 - s)a = s$   $s \neq 2$  であるから  $a = \frac{s}{2 - s}$

$s$  の値の範囲に注意して、これを (2) の結果に代入すると

$$t = -\frac{2\sqrt{\frac{s}{2 - s}}}{\frac{s}{2 - s} + 1} = -\sqrt{s(2 - s)}$$



**3** (1)  $R = a^x = b^y = (ab)^z$  とおくと ( $x, y, z \neq 0, 1 < a < b$ )  $R \neq 1$

$$a = R^{\frac{1}{x}}, \quad b = R^{\frac{1}{y}}, \quad ab = R^{\frac{1}{z}}$$

ゆえに  $R^{\frac{1}{x}}R^{\frac{1}{y}} = R^{\frac{1}{z}}$  したがって  $R^{\frac{1}{x} + \frac{1}{y}} = R^{\frac{1}{z}}$  よって  $\frac{1}{x} + \frac{1}{y} = \frac{1}{z}$

別解  $R = a^x = b^y = (ab)^z$  とおくと ( $x, y, z \neq 0, 1 < a < b$ )  $R \neq 1$

正の実数  $c$  ( $c \neq 1$ ) を底とする対数をとると

$$\log_c R = x \log_c a = y \log_c b = z(\log_c a + \log_c b)$$

$$\text{したがって } \log_c a = \frac{\log_c R}{x}, \quad \log_c b = \frac{\log_c R}{y}, \quad \log_c a + \log_c b = \frac{\log_c R}{z}$$

上の第1式, 第2式を第3式に代入すると

$$\frac{\log_c R}{x} + \frac{\log_c R}{y} = \frac{\log_c R}{z} \quad \text{よって} \quad \frac{1}{x} + \frac{1}{y} = \frac{1}{z}$$

(2)  $\frac{1}{m} + \frac{1}{n} = \frac{1}{5}$  より  $mn = 5(m+n)$  ゆえに  $(m-5)(n-5) = 25$   
 $m > n$  に注意すると,  $m-5 > n-5 > 0$  であるから

$$m-5 = 25, \quad n-5 = 1 \quad \text{よって} \quad (m, n) = (30, 6)$$

(3)  $m, n$  は自然数であるから,  $Q = a^m = b^n$  とおくと ( $1 < a < b$ )  $Q > 1$

$$a = Q^{\frac{1}{m}}, \quad b = Q^{\frac{1}{n}}$$

$a < b$  より  $Q^{\frac{1}{m}} < Q^{\frac{1}{n}}$  ゆえに  $\frac{1}{m} < \frac{1}{n}$  すなわち  $m > n$

(1)において,  $x = m, y = n, z = 5$  とすると,  $a^m = b^n = (ab)^5$  ならば

$$\frac{1}{m} + \frac{1}{n} = \frac{1}{5}$$

さらに, (2) の結論により

$$a^{30} = b^6 \quad \text{よって} \quad b = a^5$$

